

## 救急科専門医育成プログラム登録申請書

記入日（西暦） 2015 年 6 月 30 日

施設名	東京都済生会中央病院	
所在地	〒108-0073 東京都港区三田1-4-17	
救急部門長氏名	関根和彦 印	
プログラム責任者氏名	関根和彦 印	プログラム責任者の 救急科専門医番号： 2540

※プログラム責任者は救急科専門医でなければならない。

※救急部門長とプログラム責任者が同一人物の場合でもそれぞれの欄に記名のこと

## 登録するプログラム

プログラム種別 (該当に○)	3年専従型 ・ ER型 ・ <u>複合型</u>
プログラムの名称	東京都済生会中央病院 救命集中治療型救急医 育成プログラム
専攻医数（年間養成可能と考える）	2名/年

	研修先 (該当に○)	施設名	部・科名	予定 研修期間
1	<u>救急部門</u> ・ 他科研修	東京都済生会中央病院救命救急センター	救急診療科（外来・病棟）	12ヵ月
2	救急部門 ・ <u>他科研修</u>	東京都済生会中央病院	循環器科、腎臓内科、脳卒中センター	6ヵ月
3	<u>救急部門</u> ・ 他科研修	東京都済生会中央病院救命救急センター	救急診療科（外来・病棟）	6ヵ月
4	救急部門 ・ <u>他科研修</u>	東京都済生会中央病院	呼吸器内科、放射線科（診断、血管内治療）	6ヵ月
5	<u>救急部門</u> ・ 他科研修	東京都済生会中央病院救命救急センター	救急診療科（外来・病棟）	6ヵ月
6	<u>救急部門</u> ・ 他科研修	関連研修施設	救急科（外来・病棟）	6ヵ月
7	<u>救急部門</u> ・ 他科研修	東京都済生会中央病院救命救急センター	救急診療科（外来・病棟）	6ヵ月
			計	48ヵ月
			救急部門 ・ 他科研修	( 36 )  ( 12 )

※救急科専門医審査（勤務歴・診療実績）時において、ローテーション先施設に常勤する救急科専門医（不在の場合は認証資格者）の証明が必要となるので注意のこと

## I. 研修プログラムの名称：

東京都済生会中央病院 救命集中治療型救急医 育成プログラム

## II. プログラムの概要：

当院では、2011年度から救急科専門医を中心とした北米型（ER型）救急医療が実施され、2012年度から救命救急センターでの救命集中治療およびAcute Care Surgery（ACS）が開始された。当科の活躍が期待されるER、ACS、Emergency Intensive Care Unit（EICU）では、オールラウンドな救急診療能力とともに、各領域の専門性を併せ持った救急医によるチーム医療が必要となる。よって当科の研修では、傷病の種類や重症度に関わらない総合救急診療能力の獲得を共通のコンポーネントとし、各分野での専門的能力の養成にも力を入れている。

本プログラムは、原則として卒後3年目以降の医師を対象として、重篤な救急患者に対してERでの処置診療からEICUでの救命集中治療を一貫して行う救急医を育成するための後期研修医プログラムである。EICUでの救命集中治療で必要となる基礎的スキルは、当院ER・救命救急センターおよび関連研修施設（詳細下記）での救急専従研修36ヶ月と、院内他科研修12ヶ月（循環器科、腎臓内科、脳卒中センター（神経内科、脳外科、血管内治療科を含む）、呼吸器内科、放射線科（診断学））を行うことによって、獲得を目指す。また希望者には、心臓カテーテル検査をはじめとした血管造影検査や上部消化管内視鏡検査・気管支鏡検査などの内視鏡検査を、週間スケジュールに組み込むことも可能である。

救急科専門医の取得に必須となる診療実績（A項目（必要な手技・処置）、B項目（必要な知識）、C項目（必要な症例））を4年間で習得し、5年目で救急科専門医を受験する。救急専門医取得後に、集中治療専門医の取得に向けた研修・研究を継続する。

## III. 教育到達目標：

傷病の種類や重症度に関わらないERでの初期対応能力を基礎として、EICUでの救命集中治療に必要なとされる緊急手術・処置や救命救急センターでの集中治療を遂行する能力の習得が本プログラムの目標である。

## IV. 研修施設：

### ① 基幹研修施設：

東京都済生会中央病院 救命救急センター（研修プログラム責任者名： 関根 和彦）

### ② 関連研修施設：

1) 済生会横浜市東部病院 救命救急センター（研修プログラム責任者名： 山崎 元靖）

2) 済生会宇都宮病院 救命救急センター（研修プログラム責任者名： 宮武 諭）

3) 平塚市民病院 救急科（研修プログラム責任者名： 葉 季久雄）

### ③ 他科研修施設：

東京都済生会中央病院 循環器科 （研修プログラム責任者名： 循環器科部長 中川 晋）

東京都済生会中央病院 腎臓内科 （研修プログラム責任者名： 腎臓内科部長 竜崎 崇和）

東京都済生会中央病院 脳卒中センター（研修プログラム責任者名： センター長 星野 晴彦）

東京都済生会中央病院 呼吸器内科（研修プログラム責任者名： 呼吸器内科担当部長 中村 守男）

東京都済生会中央病院 放射線科（研修プログラム責任者名： 放射線科部長 金田 智）

東京都済生会中央病院 脳外科（研修プログラム責任者名： 脳外科部長 浅田 英穂）

東京都済生会中央病院 内視鏡センター（研修プログラム責任者名： 消化器内科担当部長 中澤 敦）

## V. 研修プログラム

### ① 研修プログラムの全体像

年次	研修施設	部門	内容
1年目	済生会中央病院 救命救急センター	ER および救命病棟	ER 初期対応、救命集中治療（希望者は心臓カテーテル検査、内視鏡検査）
2年目 前半 (6ヶ月間)	済生会中央病院	循環器科、腎臓内科、 脳卒中センター	各科・部門での救急対応・緊急手術/処置の習得
2年目 後半 (6ヶ月間)	済生会中央病院 救命救急センター	ER および救命病棟	ER 初期対応、救命集中治療（希望者は心臓カテーテル検査、内視鏡検査）
3年目 前半 (6ヶ月間)	済生会中央病院	呼吸器内科、放射線科	各科・部門での救急対応・緊急手術/処置の習得、画像診断
3年目 後半 (6ヶ月間)	済生会中央病院 救命救急センター	ER および救命病棟	ER 初期対応、救命集中治療（希望者は心臓カテーテル検査、内視鏡検査）
4年目前半 (6ヶ月間)	関連研修施設 救急科	ER および救急病棟	救急科での ER 初期対応・救急集中治療
4年目後半 (6ヶ月間)	済生会中央病院 救命救急センター	ER および救命病棟	ER 初期対応、救命集中治療（希望者は心臓カテーテル検査、内視鏡検査）

## ② 各年次の研修プログラム内容

### 1年目（基幹研修施設：東京都済生会中央病院 救命救急センター）

#### ➤ 研修到達目標：

救急医療制度を理解し、病院内での役割を実践する。救急科専門医診療実績表に基づいた救急病態や手技を経験しながら、救急医としての基礎を確立する。

#### ➤ 指導体制：

当院の救急科指導医・専門医により、個々の症例、あるいは手技につき指導や助言をうける。毎日8:30-9:00のラウンドで、受持患者の症例提示と治療方針についての討論を行う。週に2度行われる救急カンファレンスで、主にERを救急受診する症例に関して、診断と治療が適切に行われているか、また他の診療オプションを実施する場合の利益・損失は何かについて議論する。これらを通じて、医学的・社会的な諸問題に関する経験や考察を深める。

#### ➤ 研修内容

上級医の管理下でERでの初期対応および救命救急センターでの入院加療を担当する。必要な手技・処置の研修のみならず、基本的な臨床マナー、自律的な学習習慣を身につけ、初期研修医のモデルとなる。

### 2年目 前半6ヶ月（基幹研修施設：東京都済生会中央病院）

#### ➤ 研修到達目標：

救急医および集中治療医としての知識・経験と技術を向上させるために、救急診療で遭遇することの多い他科（循環器科、腎臓内科、脳卒中センターなど）での救急対応および心臓カテーテル検査や血管内治療をはじめとした血管造影の手技・処置や、血液浄化療法や経皮的補助循環療法の習得を目標として、他科・他部門での研修を行う。

#### ➤ 指導体制：

各科指導医・専門医により、個々の症例、あるいは手技につき指導や助言をうける。各科指導医・専門医とともに緊急での血液浄化療法や補助循環療法の適応を判断し、上級指導医の指導的助手のもとで治療実施の指導を受ける。日々のラウンドやカンファレンスで、受持患者の症例を中心として討論を行

い、各科特有の医学的・社会的問題に関する経験や考察を深める。

➤ 研修内容

各科指導医の指導・助言の下に上級医と一緒に患者を担当する。各科外来・病棟、およびER・救命救急センターでの診療にも主体的に関わり、判断力や決断力、実行力とともに、各科特有の診療プロセスや診療手技を養う。各科カンファレンスの司会、救急患者受け入れに関する呼び出しなども担当する。

2年目 後半6ヶ月（基幹研修施設：東京都済生会中央病院 救命救急センター）

➤ 研修到達目標：

救急医および集中治療医としての知識・経験と技術を向上させ、さらにパラメディカルや初期研修医に対して指導ができる。

➤ 指導体制：

救急科指導医・専門医により、個々の症例、あるいは手技につき、必要な場合に指導や助言をうける。日々のラウンドやカンファレンスで、受持患者の症例を中心として討論を行い、各科特有の医学的・社会的問題に関する経験や考察を深める。

➤ 研修内容

各科指導医の指導・助言の下に1人で救急患者の入院加療を担当する。各科外来・病棟、およびER・救命救急センターでの診療にも主体的に関わり、判断力や決断力、実行力とともに、診療手技を養う。

3年目 前半6ヶ月（基幹研修施設：東京都済生会中央病院）

➤ 研修到達目標：

救急医および集中治療医としての知識・経験と技術を向上させるために、救急診療で遭遇することの多い呼吸器内科領域での救急対応および気管支鏡の手技・処置の習得や、救急診療で必須となる各種画像検査（CT, MRI, 心・腹部エコー）に関して指導医監督下での検査実施と独影・レポート作成を目標として、他科での研修を行う。

➤ 指導体制：

各科指導医・専門医により、個々の症例、あるいは手技につき指導や助言をうける。各科指導医・専門医とともに緊急気管支鏡の適応を判断し、上級指導医の指導的助手のもとで治療実施の指導を受ける。日々のラウンドやカンファレンスで、受持患者の症例を中心として討論を行い、各科特有の医学的・社会的問題に関する経験や考察を深める。救急科指導医・専門医により、必要な場合、あるいは本人が求めた場合に、指導や助言をうける。

➤ 研修内容

各科指導医の指導・助言の下に上級医と一緒に患者を担当する。各科外来・病棟、およびER・救命救急センターでの診療にも主体的に関わり、判断力や決断力、実行力とともに、各科特有の診療プロセスや診療手技を養う。救急患者受け入れに関する呼び出しなども担当する。

3年目 後半6ヶ月（基幹研修施設：東京都済生会中央病院 救命救急センター）

➤ 研修到達目標：

救急医および集中治療医としての知識・経験と技術を向上させ、救急診療における診断と治療の方針を自ら決定することができ、初期研修医や救急救命士に対して指導ができる。

➤ 指導体制:

救急科指導医・専門医により、必要な場合、あるいは本人が求めた場合に、指導や助言をうける。日々のラウンドやカンファレンスで、受持患者以外の症例に関しても討論を行い、その中でも医学的・社会的な諸問題に関する経験や考察を深める。

➤ 研修内容

1人あるいは、研修医とペアーで救急患者を担当する。ERおよび救命救急センターでの診療にも主体的に関わり、判断力や決断力、実行力を養う。カンファレンスの司会、救急患者受け入れやベッドコントロール、スタッフの割り当てなどを担当する。救命士再教育プログラム等により、救命士の指導にあたる。

4年目 前半6ヶ月（関連研修施設での救急科診療）

➤ 研修到達目標:

救急医および集中治療医としての知識・経験と技術を向上させるために、関連研修施設での救急科診療に携わることによって、救急傷病や診療システムの地域性を学び、その地域での Medical Control をはじめとした地域医療や行政における救急医の立場を理解する。他病院の救急医や他科専門医との診療を通じて、自身の知識・経験の幅を広げる。自身の将来構想のもとに、研修や研究のプランを立てる。

➤ 指導体制:

関連研修施設において、救急科指導医・専門医により、個々の症例、あるいは処置・手技につき、必要な場合に指導や助言をうける。日々のラウンドやカンファレンスで、受持患者以外の症例に関しても討論を行い、その中でも医学的・社会的な諸問題に関する経験や考察を深める。

➤ 研修内容

ERを受診する重症外傷、中毒、熱傷、敗血症、心肺停止などの重症疾患・病態の初期診療・根本治療のリーダーとして外来診療を担当する。上級救急医および各診療科の専門医はアドバイザーとして、3年間の研修の集大成としてリーダーを務める。救急病棟での入院治療管理においても、上級医の助言の下に治療方針の決定に主体的に関わる。また救命士再教育プログラム等により救命士の指導にあたりると同時に、地域のMC体制や災害医療体制の理解に努める。

4年目 後半6ヶ月（基幹研修施設：東京都済生会中央病院 救命救急センター）

➤ 研修到達目標:

初期・後期研修医の指導とともに、救急受け入れの指揮および施設全体のマネジメントができ、さらに、地域医療や行政における救急医の立場を理解する。自身の将来構想のもとに考えた研修や研究のプランに基づいて、技能研鑽や臨床研究に携わる。さらに初期研修医、救急救命士に対して指導ができる。

➤ 指導体制:

救急科指導医・専門医により、必要な場合、あるいは本人が求めた場合に、指導や助言をうける。

➤ 研修内容

ERを受診する重症外傷、中毒、熱傷、敗血症、心肺停止などの重症疾患・病態の初期診療・根本治療のリーダーとして診療を担当する。上級救急医および各診療科の専門医はアドバイザーとして参画するが、3年間の研修の集大成としてリーダーを務める。救命救急センターでの入院治療管理においても、上級医の助言の下に治療方針の決定に主体的に関わる。また救命士再教育プログラム等により救命士の指導にあたりると同時に、地域のMC体制や災害医療体制の理解に努める。

#### 4年間を通じて

各種教育コースを積極的に受講する。各種教育コースを積極的に受講し、インストラクター資格の獲得も目指す。救急関連の地方会で年1回の発表と、全国規模の学会で年1回以上の発表とを行う。年間1編以上の邦文論文を作成・誌上发表することを目標とする。上級医師の海外学会発表に同行し、国際学会の雰囲気を経験し、次年度以降の発表に備える。